



2022年8月15日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長兼最高経営責任者
 此下 竜矢
 (コード番号 5103 スタンダード市場)
問合せ先 取締役兼最高執行責任者兼
 最高財務責任者 庄司 友彦
 (TEL. 04-7131-0181)

営業外収益及び、営業外費用の発生に関するお知らせ

当社は、2023年3月期第1四半期（2022年4月1日～2022年6月30日）の決算を締め切る過程において、以下の通り営業外収益及び、営業外費用を計上することになりましたので、お知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益 81百万円）の発生及びその内容（連結）

当社は、2023年3月期第1四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年6月30日）において、主に、今年に入ってから為替相場が大きく円安に振れた影響により、当社グループが保有する外貨建債権等に係る為替差益が発生することとなり、81百万円を計上することとなりました。

2. 営業外費用（持分法による投資損失 185百万円）の発生及びその内容（連結）

当社は、2023年3月期第1四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年6月30日）の持分法適用関連会社からの取込損益の精査の過程で、主にマイクロファイナンスやオートバイファイナンスを行っているDigital Finance事業において、新型コロナウイルス感染症防止策に伴う進出国各国での景気減退の影響が長引いていることから当該事業の回復が遅れていることに加え、ミャンマーでのクーデターの発生や、ミャンマーチャットやラオスキープ等の為替相場の急落の影響から当該事業の主力商品であるミャンマーやラオスでは100%輸入品であるオートバイ価格が急騰し顧客の購入意欲が大きく減退するといった厳しい経営環境で事業活動を行うこととなった結果、持分法投資損失185百万円を計上することとなりました。

当該事業については、足元ではカンボジアやタイにおいて、営業貸付金の増加が見られることや、数年継続して損失を計上してきたインドネシアでの事業活動も既に終了し損失の引当も考慮していることから、今期末に向けてこれらが業績の下支えになるものと考えております。

3. 今後の見通し

上記に記載の営業外収益及び、営業外費用につきましては、2022年8月15日付の「2023年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映させております。

以上